

# 振動との「戦い方」指導

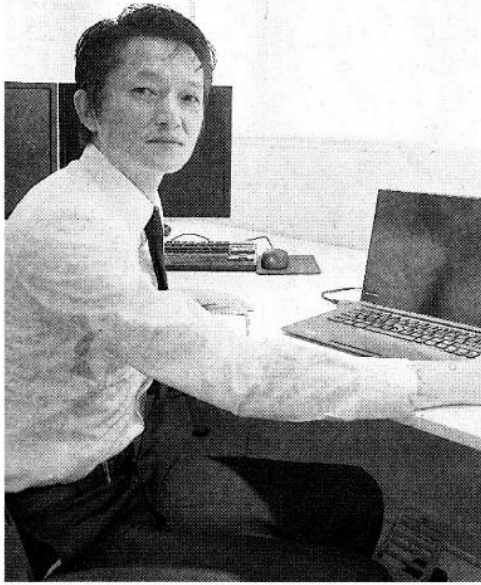


「零戦の振動」。いくらかユニークなテーマのセミナーを12日に横浜市内で開催する。

「自動車、飛行機など動く物を作るうえで振動は必ずつきまとう課題です。その振動についての入門講座です。エンジニア

## 技術セミナーを開催

### 安藤隆幸代表取締役



私は愛知県の出身で45歳。高校生の時に飛行機にあこがれるスイッチが突然入ってしまいました。大学では機械工学を学び、飛行機の求人はいなかったので、自動車メーカーに就職。コンピューターを使った振動解析はそこで取り組んだ仕事でした。会社勤めのかたわら、パイロット資格を取りました。飛行機にかかわるには、実際に動かして特性を知ることが必要だと考えたからです。自家用の資格は米国で、事業用は日本で取りましたが、給料と休暇のすべてを使いました。35歳で独立し、飛行機への思いを社名に込めました。国産飛行機の開発に、いつの日にか参加できたならという夢は30年たった今も変わりません。

## エアロメカ

が対象の技術セミナーで、カルチャー教室ではありません」  
コンピューターを使ったシミュレーションや実験が専門。振動がなぜ発生するのか、どうすれば低減できるのかといった企業の悩みに応じることを業務としている。専門のコンピューターソフトが値下がりし、導入する企業が増えているという。そうしたソフトの操作法のセミナーも開催してきたが、なかなか活用できずに困っているのを目にし、「振動とは、振動制御と

は何かを基礎から知ることが必要」と初めて企画したという。零戦には特別な思いがある。

「零戦の開発は振動との戦いでした。コンピューターも電卓もない時代に私と同じ仕事をした人がいたことに驚き、どのように克服したのかを長年研究してきました。創意や工夫など課題克服の過程は、最も基本的な振動工学のサンプルで、取り付きにくい専門の技術書とは違い、振動を理解する最短距離になるはずだと考えたのです」

零戦の開発物語は宮崎駿監督のアニメ映画「風立ちぬ」で広く知られるようになったが、現代のビジネスに通用する教訓が

あふれているともいう。「軽い強度があり運動能力も高く、航続距離が長い——目指す目標はとも高く、未開拓な領域の困難な課題ばかりでした。それを短期間で実現するには、技術力や独創性に加え、しっかりとした業務マネジメントが必要でした。実験には何度も失敗し、殉職者も出ています。そのような時に何を考え、どのように対応したか。今日の製品開発でも参考になるはず」

受講料は5千円。これまで開催してきた技術セミナーに比べて1桁安い設定だとい、「ビジネスとはあまり考えられないですね」。詳細や申し込みはホームページ (<http://www.aeromecha.co.jp>) へ。

## 国産飛行機開発への思い、今も

(渡辺延志)

株式会社エアロメカ 2005年設立。「ビジネスとしては当初のもくろみと違い、社員はいつまでも自分1人だけ。会社というより自営業です」と安藤さん。振動の業務は自動車と自動車部品メーカーからのものが大半だという。事務所は横浜市都筑区中川中央1の24の20のスタジオフラット1の402。